現代国文法・品詞

言語の最小単位である単語は、品詞に分類される。教科書[1]の分類に従えば、十一に分かれる。

■ 単語……言語の文法上の最小単位。

◆ 自立語……単独で文節になれる語。

★ 活用がある……文中の働きによって語尾が変化すること。活用形には、未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形がある。言葉の意味はだいたい以下のようになるが、前後がどうやって接続するかは**文法書を見て確認**すること。

- 未然形……「まだその状態にない」ときの形
- 連用形……用言につながる形
- 終止形……言い切りの形
- 連体形……体言につながる形
- 仮定形……仮定するときの形
- 命令形……命令するときの形

☆ 述語になれる（用言）

- 動詞……動作・作用・状態・存在を表す。

➢ 活用の種類……打ち消しの「ない」を動詞につけてみる。

✧ 五段活用……「ない」をつけたときの語尾が**ア段**音のとき。「書く」の場合、
未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形の順に並べると
「か　き　く　く　け　け」となる。それぞれ、
「ナイ」「マス」（言い切り）「トキ」「バ」（命令の形）
という言葉に続けるときの変化と対応する。

---

[1]学校文法では、「文節」を重要視した、国語学者・橋本進吉(1882 - 1945)による「橋本文法」が中心になっている。(ウィキペディア)

(c)1993-2011 新海

- 五段活用の連用形には音便（おんびん……発音のしやすさから、音が変化すること）がおきる場合がある。
  - イ音便……咲きて→咲いて、泳ぎて→泳いで
  - ウ音便……思ひて→思うて
  - 撥音（はつおん）便……呼びて→呼んで、死にて→死んで
  - 促音（そくおん）便……立ちて→立って、ありて→あって

✧ 上一段活用……「ない」をつけたときの語尾が**イ段**音のとき。「見る」の場合
「み　み　みる　みる　みれ　みろ（みよ）」

✧ 下一段活用……「ない」をつけたときの語尾が**エ段**音の時。「受ける」の場合
「け　け　ける　ける　けれ　けろ（けよ）」

- 可能動詞……もとは５段活用の動詞が、下一段活用に転じて可能の意味を持つようになったもの。「読む→読める」「書く→書ける」「歩く→歩ける」
  ちなみに、「歩かれる」は「歩く」の未然形「歩か」＋可能の助動詞「れる」であって、可能動詞ではない。

✧ カ行変格活用……「来る」の一語のみ。
「こ　き　くる　くる　くれ　こい」

✧ サ行変格活用……「する」の一語のみ。ただし複合語多し。
「さ（せ）（し）　し　する　する　すれ　しろ（せよ）」

➢ 補助動詞……動詞が本来の意味と自立性を失って、助動詞のように前の文節を補助するとき、これを補助動詞という。

✧ お帰りなさる、見ていただく

➢ 自動詞（それ自身の動作や作用を表す。）と他動詞（他に対する働きかけを表す。）

✧ 自動詞と他動詞の活用が同じ場合

- 水が増す、水を増す

✧ 活用が異なるもの

(c)1993-2011 新海

● 船が沈む（四段）、船を沈める（下二）

・ 形容詞……性質・状態・心情を表す。

➢ 活用「かろ　かっ（く）　い　い　けれ」

➢ ウ音便が起きる：近く→近う、楽しく→楽しゅう

・ 形容動詞……性質・状態を表す。内容は形容詞的。語の接続は動詞的。

➢ 活用「だろ　だっ（で）（に）　だ　な　なら　〇」

※用言ではないが、名詞＋「だ」も述語になる。

➢ 例文：「あの花は梅だ。」

★ 活用がない……語尾が変化しない

☆ 主語になれる（体言）

・ 名詞……物の名前。事物を静的にとらえる。

➢ 普通名詞……同類の事物に広く用いる。「こころ」「春雨」「ふみ」

➢ 固有名詞……人名・地名・書名・会社名など。「清少納言」「名古屋」「徒然草」

➢ 数詞……数、数による順番。「３人」「４羽」「８番」

➢ 形式名詞……抽象的意味を表すため、修飾語がないとはっきりしないもの。通常かな書きされる。「今終わったところだ」「合格することは難しい」「帰ったほうがいい」「失敗したままだ」「できるはずがない」「よく集まったものだ」「明日出発するつもりです」「そういうわけで休んだ」

➢ 合成名詞（複合名詞）……いくつかの単語が組み合わされて出来たもの。「黒板拭き」「うれし涙」「子供たち」「全世界」

※名詞の副詞的用法……時や数を表す名詞に限り、連用修飾をするときがある。状態を示す体言。「私は昨日**到着した**」「僕は２枚**買った**」

・ 代名詞……事物の名をいわずに、場所などを直接さしていうもの。

➢ 人称代名詞……人をさすもの。「わたくし」「わたし」「ぼく」「あなた」「きみ」「おまえ」「これ」「それ」「かれ」「あれ」「だれ」「どなた」

➢ 指示代名詞……事物・場所・方向。

(c)1993-2011 新海

✧ 事物「これ」「それ」「あれ」「どれ」「なに」

✧ 場所「ここ」「そこ」「あそこ」「どこ」

✧ 方向「こちら」「そちら」「あちら」「どちら」

☆修飾語になるもの

- 連体詞……体言を修飾。「この」「その」「あの」「どの」「かの」「わが」「ある」「さる」「いわゆる」「大きな」「とんだ」「たいした」
- 副詞……用言、副詞自身、状態を示す体言を修飾。（例）およそ三年
  - ➢ 状態の副詞……状態・時などを表して、主として動詞を修飾。「ふと」「たちまち」
  - ➢ 程度の副詞……動作や状態の程度を示す。主として用言を修飾。「やや」「すこし」
  - ➢ 陳述の副詞（叙述の副詞）……述語に一定の言い方を要求する。この副詞と述語の関係を**副詞の呼応**という。「決して～ない」「まるで～ようだ」「まさか～ない」

☆独立語になるもの

- 感動詞……単独で文になれる
  - ➢ 呼びかけ……おい、もし
  - ➢ 応答……はい、いいえ、
  - ➢ 感動……ああ、おや、まあ
- 接続詞……単語や文を接続する。
  - ➢ 対等の関係を示すもの
    - ✧ 並列……および、また
    - ✧ 添加……それから、それに、なお、しかも
    - ✧ 選択……それとも、または、もしくは、あるいは
  - ➢ 条件と結果の関係を示すもの
    - ✧ 順接……したがって、そうして、そこで、そうすると、それだから、

(c)1993-2011 新海

それゆえ、だから、では、それなら、それでは

✧ 逆接……が、けれども、しかし、しかしながら、ただし、ところが

➢ 話題の転換を示すもの……さて、ところで、では

※名詞が独立語になる場合がある。

➢ 提示……「イギリス、ビートルズの国だ。」

◆ 付属語……自立語に付属して文節をつくる。単独で文節になれない語。

★活用がある

・ 助動詞……用言・体言に意味を加える。主として話しての判断を示す。

➢ れる・られる　受身・尊敬・可能・自発

➢ せる・させる　使役・尊敬

➢ ない・ぬ（ん）　打ち消し

➢ う・よう　推量・意志

➢ た　過去・完了・存続。
五段活用のイ音便と撥音便につくときは「だ」となる。

➢ そうだ・そうです　様態・推量

➢ たい・たがる　希望

➢ ます　丁寧

➢ まい　打ち消し推量・打ち消し意志

➢ らしい　推定

➢ そうだ・そうです　伝聞

➢ ようだ・ようです　同等・比較・例示・不確かな断定

➢ だ・です　断定

・ 接続のしかたと活用についても注意して覚えておく。→文法書を見よ

★活用がない

(c)1993-2011 新海

- 助詞……語の関係を示し、意味を加える。前の語が後の語とどういう関係にあるか示す。話し手の心情。文を完結するなど。
  - 格助詞……主として体言について、文中の他の語との関係を示す。
    - が、の、を、に、へ、と、より、から、で、や
  - 接続助詞……接続の文節をつくる。
    - ば、ても、と、けれども、が、のに、ので、から、て、で、し、たり、ながら
  - 副助詞……いろいろな語について、意味を添える、また下の文節を修飾する。
    - は、も、こそ、か、さえ、でも、しか、なり、やら、ほど、くらい、だけ、まで、ばかり、など
  - 終助詞……主として文末にあって、希望・禁止・感動などの意味を表す。
    - な、か、の、な、ぞ、とも、よ、わ、こと、もの、ね、ねえ、さ

参考文献

新総合国語便覧 [書籍] / 著者 稲賀敬二ほか監修,第一学習社, 1991.

以上

(c)1993-2011 新海